

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
<p>【学校教育目標】共に創り共に歩み共に輝く</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を大切にし、自ら課題を解決しながら、共に学び合う力を育てます。【知】 ○他者との豊かな関わり合いの中で、互いのよさや違いを認め合い、共に高め合える姿勢を育てます。【徳】 ○健康や安全の大切さに気づき、自分や他者の生命を尊ぶことのできる、心も体も健やかな子どもを育てます。【体】 ○地域の人々や自然とのかかわりを通して生き方を学び、自らできることを考えて実践できる力を育てます。【公】 ○私たちの「まち」綱島を愛し、綱島の自然や文化の素晴らしさを受け継ごうとする態度を育てます。【開】 	
教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
<p>【綱島小学校】 感謝の気持ちを持ち、自他を思いやり認め合う子 — 聴く力、伝える力 —</p> <p>【新田中ブロック】 自分づくりに関する力</p>	具体化した資質・能力
	<p>相手の立場や気持ちを考える力 自分らしさを大切にできる姿勢 思いや考えを聴く力・伝える力</p>

中期取組目標	
<p>○子ども一人ひとりが思いや考えを持ち、共に学び合いながら、主体的・対話的に学びが深まるような教育活動を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年目は、子どもたち全員が考えをもち、互いに学び合おうとする姿を目指します。 ・2年目は、子どもの表現を大切にしながら共に学び合い、子どもたち全員の学び合う力が高まるように育てます。 ・3年目は、共に学び合うことで、互いに考えを深め合えることができます。 <p>○綱島のまちの「人」「もの」「場所」を生かし、「感謝」「思いやり」「認め合い」「聴く、伝える」といった身につけたい力を明確にしなが、綱島を愛する心を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします ・「感謝」「思いやり・認め合い」「聴く、伝える」という資質・能力育成をめざした授業改善、学級経営、学年経営に取り組みます。 ・学校行事を充実することで、綱島小の一員である意識を高め、「チーム綱島」として力を発揮できるようにします。 ・通級指導教室、一般学級・個別支援学級担との連携、情報交換、研修等を通し、チーム力向上を図ります。 	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	<p>①どの教科でも、児童が自分の考えや思いをもち、伝え合い、認め合い、主体的、対話的に取り組むことができるような授業展開を推進する。</p> <p>②授業を通して身に付けさせたい資質・能力を見据え、多様な児童の実態に対応できる授業づくりを行う。</p>
担当	評価・カリマネ委員会

学力向上に関わる本校の状況		今年度の目標	
<p>横浜市学力・学習状況調査の結果を見ると、学力では全学年が市の平均を上回っている。しかし生活・学習意識調査では、意欲面などで市の平均を下回っている。それは、学習に取り組むことで自己有用感を感じたり、学ぶこと自体の楽しさを感じたりする経験が少ないことが原因として考えられる。そこで、体験的な学習を通して理解を深める活動を取り入れ、「できた」「分かった」という気持ちを大切に授業に取り組んでいく。また、自らの課題を見つけ、探求したり友達と協働して解決をしたりする授業展開を通し、友達と考えや意見を伝え合うことのよさを感じていけるようにする。</p>		<p>共に認め合う子どもの育成 自分の考えや思いを伝え合い、共に認め合う姿を目指して</p>	
目標を実現するための具体的行動プラン			
上半期	<p>①学年研究会を中心に教材研究を行い、「学びを深める姿」について共通理解し、協働的な学び、個別最適な学びを進めることができるようにする。</p> <p>②校内重点研究会では、「自分の考えや思いを伝え合う」「主体的に取り組む」「共に認め合う」を大切に研究を進める。学級活動を通して、児童の「やりたい」「伝え合いたい」という気持ちを大切に、主体的に取り組めるように活動を工夫する。</p> <p>③児童一人ひとりが安心して自分の考えを伝えられるような学級風土づくりに努めるとともに、友達の考えを「聞く、認める」姿を捉えて評価し、価値づけるようにする。</p>	上半期	
下半期	<p>①上半期の活動内容や児童の実態を振り返り、各学年に応じて教材研究や学習展開の工夫を考え、実践していく。</p> <p>②子ども同士の協働的な学びができる場面を大切に、自ら進んで友達に考えを伝えたいようになる授業づくりに取り組む。</p> <p>③児童一人ひとりが「伝わった」「伝えてよかった」と感じる授業展開やめあてのめたせ方を工夫する。</p>	下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	<p>①年間を通してペア学年の取組を充実させ、自他を大切に思いやりの心情を育てる。</p> <p>②年間計画を基に、児童主体の学級活動を推進し、自己有用感を高めるとともに、互いのよさを認め合う機会を継続的に設ける。</p>
担当	人権・児童指導委員会

豊かな心に関わる本校の状況		今年度の目標	
<p>(1)児童の実態 学習環境は整っていて、学力や理解力は高いが、日常生活や友達との関わりの中でそれを生かすことがなかなかできない。全体的には素直な児童が多く、人との関わりを積極的にもつことができる。一方で、認められたい、構ってほしいと思っている児童も多く、自分本位な関わり方から、生活場面においてトラブルになることもよくある。また、高学年になると、学習塾に通う児童も増え、時間や精神的にゆとりがなく、自分に自信がもてない児童やストレスをうまく解消できない児童もいる。高学年になるにつれて、相手の立場に立って考えたり、集団活動の楽しさを感じたり、人のために活動したりすることが難しくなる傾向がある。</p> <p>(2)昨年度の取り組み 児童がよりよい集団づくりのために自分の役割を自覚して取り組み、自己有用感や達成感を感じられるように特別活動の充実を図ってきた。また、様々な集会活動でペア学年での活動を生かし、互いのよさを認め合う取組を行ったり、学習活動の中で、異学年との交流を取り入れて、よさを気付かせることができた。</p>		<p>互いを思いやり、よさを認め合うことで、自他を大切にできる姿を目指して</p>	
目標を実現するための具体的行動プラン			
上半期	<p>①委員会活動、実行委員や学年・学級の係や当番活動など、計画的に実施したり、活動の流れなどを視覚化したりすることで、児童が自分の役割を自覚して主体的に取り組めるようにする。また、活動後の振り返りで、できたこと、できるようになったことを価値づけることで、児童が自己有用感や達成感を感じられるようにする。</p> <p>②授業の中で、児童同士が伝え合ったり学び合ったりする場面を意図的に設けたり、振り返りを充実させたりすることで、互いの違いを受け止め、自分や他人のよさに目を向けられるようにする。</p> <p>③SOSの出し方教育を行い、子どもたち一人ひとりが社会スキルを身に付けて、適切に友達と関われるようにする。</p>	上半期	
下半期	<p>①ペア学年交流活動を充実させ、児童が相手意識をもって主体的に関わり、相手の立場になって考えたり行動したりする成功体験を積めるようにする。</p> <p>②YPのアセスメントのデータも活用しながら児童一人ひとりの児童理解や学級の実態把握に努め、適宜プログラム行ったり、授業改善を行ったりして、児童が安心して自己表現し、互いに認め合える学級風土づくりに努める。</p> <p>②人権週間をきっかけに全校児童で「福祉」について自分事として考え、違いを認め、自他を大切にできる心情を育てる。</p>	下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	<p>①体育の授業の手立ての工夫や「つなスポ」委員会の取組を通して、運動することの楽しさを味わわせ、日常的な運動習慣の形成につなげる。</p> <p>②学校保健委員会の実践や養護教諭との連携による保健についての確かな知識を得る機会を通して自分の心や体の健康や成長に関心をもてるようにする。</p> <p>③栄養職員と連携しながら給食指導等を通して食の大切さを伝える。</p>
担当	健康安全委員会

健やかな体に関わる本校の状況		今年度の目標	
<p>【体育】 ・日常的に体を動かすことを好み、進んで体育の授業に取り組んだり、休み時間に体を動かして遊ぶ児童がいる反面、自分からは運動せず、体育の授業など限られた時間しか体を動かす機会がない児童もいる。</p> <p>・新体力テストの結果を見ると、走る、跳ぶ、投げるなど体全体を使う種目では、全国や横浜市の平均を下回る結果となっている。</p> <p>【保健・安全】 ・けがをして保健室に来室する児童のなかには、危険を回避するための距離感覚や状況判断等の認知能力の未発達によるものが多く見受けられる。</p> <p>・歯科巡回指導の結果によると、朝歯を磨いていない児童が多い。また、体調不良で来室する児童のなかには、夜遅くまで習い事をしていて就寝時間が遅い傾向がある。</p> <p>【給食】 ・毎日朝食を食べている児童の割合が約92%であり、ほとんどの児童が朝食を食べてきている。</p> <p>・給食の残食率は横浜市平均を上回っており、特に牛乳、魚類、野菜類、豆類とする児童が多い。</p> <p>・野菜などの生産者や調理員と接する機会が少なく、食を身近に感じられる機会が少ない。</p>		<p>健康安全に関する児童の自己管理能力の向上を目指して</p>	
目標を実現するための具体的行動プラン			
上半期	<p>・体育の授業において、だれもが参加しやすいような場やルールを設定し、児童それぞれがめあてをもち役割を明確にするという手立てを講じる。</p> <p>・前期学校保健委員会では、けがの予防をテーマとして設定し、昨年度実施した「けが0体操」を継続的に取り組むことで、児童の安全に関する意識の向上を図る。</p> <p>・日々の給食に地場産物を積極的に取り入れ、児童が豊かな食経験を積めるよう取り組む。また、給食室の様子を動画やばくばくだよりで発信することで、給食に対する興味・関心を高め、食をより身近に感じられるようにする。</p>	上半期	
下半期	<p>・「つなスポ」委員会が中心となり、自分自身の運動習慣や興味・関心について考えて提案し、全校で取り組む活動を実施していく。</p> <p>・後期学校保健委員会では、前期に健康に関するアンケートを実施し、その結果をもとに生活習慣について取り組み、児童の健康に関する意識の向上を図る。</p> <p>・給食週間を中心に、児童が食べ物や給食についての知識を深め、栄養バランスや感謝の気持ちをもつことの大切さに気付かせるようにしていく。</p>	下半期	